

理工学部 物質生命科学科

氏名		職位	最終学歴	学位	所属学会	専門分野	研究テーマ	研究業績
山崎 誠志	Satoshi Yamazaki	教授	豊橋技術科学大学大学院 工学研究科 博士課程修了	博士（工学） （豊橋技術科学大 学）	ゼオライト学会、日本吸 着学会、日本熱測定学 会、日本化学会、日本応 用磁気学会、アメリカ化 学会、国際吸着学会	無機材料化学、物理化 学、界面化学	新規ゼオライトの合成、 ゼオライトによる地球温 暖化ガスの吸着分離、修 飾ゼオライトの物性評価	・ゼオライトの化学的修飾と吸着特性の解明 ・多孔体あるいは無細孔微粉体の表面構造の解析 ・固体NMRを用いた無機あるいは有機化合物の構造解析
桐原 正之	Masayuki Kirihara	教授	大阪大学大学院 薬学研究科 博士後期課程修了 薬品化学	薬学博士 （大阪大学）	日本化学会、日本薬学 会、有機合成化学協会、 アメリカ化学会、化学史 学会、近畿化学協会、日 本フッ素化学会、ヨウ素 学会、日本薬史学会	有機合成化学、医薬品化 学、グリーンケミスト リー（環境調和型化学）	有機化学、医薬品化学	・シクロプロパン環の開裂を利用した新規有機合成反応の開発 ・新規有機フッ素化合物合成法の開発 ・効率的結合切断反応の開発とその有機彫刻法への応用 ・バナジウム触媒を用いた酸素酸化反応の開発 ・過酸化水素を用いた環境調和型反応の開発 ・次亜塩素酸ナトリウム 5 水和物結晶を用いた環境調和型反応の開発
笠谷 祐史	Hirofumi Kasatani	教授	広島大学大学院 理学研究科 物性学専攻 博士課程後期単位取得退学	理学博士 （広島大学）	日本物理学会、日本結晶 学会、日本放射光学会、 P F 懇談会、SPring- 8 利用者懇談会	X線結晶学、構造物性	強誘導体の構造物性研究	・精密X線結晶構造解析による構造相転移機構の研究 ・XAFS法での混晶化合物の局所構造の研究 ・強誘電性相転移機構の研究
齋藤 明広	Akihiro Saito	教授	筑波大学大学院 農学研究科 応用生物化学	博士（農学） （筑波大学）	日本農芸化学会、日本土 壌肥料学会、日本土壤微 生物学会、日本キチン・ キトサン学会、日本放線 菌学会、日本微生物生態 学会、アグリニクス研究 会	応用微生物学	応用微生物学	・低栄養微生物の分類 ・ストレプトミセス属放線菌のキチン分解と認識の仕組みの解明 ・ストレプトミセス属放線菌でのキチン分解物のトランスポー ターの解明 ・キトサン分解酵素（キトサナーゼ）についての基礎・応用研究
宮地 竜郎	Tatsuro Miyaji	教授	千葉大学大学院 自然科学研究科 （博士課程） 生産科学 単位取得満期退学	博士（農学） （千葉大学）	日本農芸化学会、日本防 菌防黴学会、日本食品科 学工学会、日本食品保蔵 学会、日本食品衛生学 会、日本食品微生物学 会、日本食生活学会	食品衛生学、食品微生物 学、発酵食品学、食品保 蔵学	食品微生物学、食品保蔵 学、食品衛生学	・乾燥食品加工時における生菌数低減化の試み（2018） ・微生物熱量計を用いた食品の菌数測定（2018） ・辛口味噌製造時の衛生管理が製品質に及ぼす影響（2018） ・Serratia nematodiphila H1-1株の産生するレクチン様ミミズ殺 傷タンパク質に関する研究（2018） ・5-アミノレブリン酸を併用した食品の紫外線殺菌法の開発 （2018） New Food Processing Technologies and Food Safety: Md. Latiful Bari

氏名		職位	最終学歴	学位	所属学会	専門分野	研究テーマ	研究業績
南齋 勉	Ben Nanzai	教授	大阪府立大学大学院 工学研究科 応用化学専攻	博士（工学） （大阪府立大学）	日本化学会、同コロイド部会、大気環境学会、イオン交換学会、海水学会、環境科学学会	界面化学、超音波化学、環境化学	界面化学、超音波化学、環境化学	Spontaneous electrical oscillation in horizontal three-phase liquid membrane systems: Effect of Marangoni effect induced by buoyant convection B. Nanzai, D. Terashita, Y. Koyano, H. Kitahata, M. Igawa, Colloids Surf. A 2018,553, 496-502. Removal of cesiu
吉川 尚子	Naoko Yoshikawa	准教授	東京大学大学院 農学生命科学研究科 博士課程修了	博士（農学） （東京大学）	日本生化学会、D-アミノ酸学会	食品化学	食品化学	クルマエビ生殖腺におけるD-グルタミン酸の生理機能 ・水生無脊椎動物におけるD-アミノ酸の分布および機能解析 ・クルマエビにおけるD-アミノ酸生合成酵素の機能解析
小土橋 陽平	Yohei Kotsuchibashi	准教授	鹿児島大学大学院 理工学部 ナノ先端材料工学	博士(工学) （鹿児島大学）	高分子学会、バイオマテリアル学会、American Chemical Society、日本DDS学会	高分子化学、バイオマテリアル	高分子化学、バイオマテリアル	・多段階温度応答性高分子に関する研究 ・病気の予防・診断・治療への応用を指向したバイオマテリアルの開発に関する研究 ・ベンゾオキサポロル基を含有する新規高分子材料の開発
高部 稚子	Wakako Takabe	准教授	東京大学大学院 工学系研究科 博士課程	博士（工学） （東京大学）	日本分子生物学会、日本抗加齢医学会、日本栄養・食糧学会、糖化ストレス研究会	分子生物学、細胞生物学	食用植物の抗糖化作用評価及び有効成分の探索、食品摂取が食後高血糖に及ぼす影響、酸化ストレス及び糖化ストレスが誘導する細胞障害メカニズムの解析	Takabe W, Yamaguchi T, Hayashi H, Sugimura N, Yagi M, Yonei Y. Identification of antiglycative compounds in Japanese red water pepper (red leaf variant of the Persicaria hydropiper sprout). Molecules. 2018;23(9):E2319. Mamun-Or-Rashid ANM, Takabe W, Yagi M, Yonei Y. Glycated-HSA inhibits osteoclastogenesis in RAW264.7 cells depending on the glyating agents via downregulating RANKL-signaling Glycative Stress Research. 2017;4(3):217-231. Son DJ, Kumar S, Takabe W, Kim CW, Ni CW, Alberts-Grill N, Jang IH, Kim S, Kim W, Won Kang S, Baker AH, Woong Seo J, Ferrara KW, Jo H. The atypical mechanosensitive microRNA-712 derived from pre-ribosomal RNA induces endothelial inflammation and atherosclerosis. Nat Commun. 2013;4:3000.

氏名		職位	最終学歴	学位	所属学会	専門分野	研究テーマ	研究業績
鎌田 昂	Takashi Kamada	准教授	北海道大学大学院 地球環境研究科 物質環境科学専攻 マレーシア国立サバ大学大学 院 博士課程	Ph.D. (Advancement of Biodiversity) (University Malaysia Sabah)	日本生薬学会、日本藻類 学会、北海道海洋生物科 学研究会、日本グローバ ル教育学会、日本サンゴ 礁学会	天然物化学、化学生態 学、グローバル教育	天然物化学、化学生態 学、グローバル教育	・ 静岡県南伊豆町下流産紅藻ソノ由来の含ハロゲン二次代謝産物 ・ 静岡県浜名湖産アメフラシの化学防御機構 ・ 沖縄県産軟質サンゴの化学成分分析 ・ 静岡県内に自生する苔類の生産するテルペノイドとその生物活 性
佃 諭志	Satoshi Tsukuda	准教授	大阪大学大学院 工学研究科 物質科学専攻 博士後期課程修了	博士(工学) (大阪大学)	日本セラミック協会、日 本金属学会、応用物理学 会	ナノ材料科学、有機・無 機ハイブリッド材料 会	量子ドット蛍光体の生体 応用、 ナノハイブリッド太陽電 池の開発、巨大シェル量 子ドットシンチレータの 開発、	Zn(Te _{1-x} Sex) quantum dots synthesized through a facile route and their band-edge and surface state driven visible-light emission, S. Tsukuda, M. Kita, and T. Omata, J. Lumin. 231 (2021) 117829. Fabrication of Au nanoparticles on poly(vinylpyrrolidone) nanowires exhibiting reversible frequency change of localized surface plasmon resonance, S. Tsukuda, S. Seki, M Omichi, M. Sugimoto, A. Idesaki, S. Seki, T. Omata, AIP Adv. 8 (2018) 015314. Fabrication of Enzyme-degradable and Size-controlled Protein Nanowires Using Single Particle Nano-fabrication Technique, M. Omichi, A. Asano, S. Tsukuda, K. Takano, M. Sugimoto, A. Saeki, D. Sakamaki, A. Onoda, T. Hayashi, and S. Seki, Nat. Commun. 5 (2014) art. No. 3718.
脇川 祐介	Yusuke Wakikawa	講師	新潟大学大学院 自然科学研究科 博士後期課程修了	博士(理学) (新潟大学)	電子スピンスイエンサ学 会	物理化学、スピン化学、 電子スピン共鳴	有機半導体材料およびデ バイスにおける電荷キャ リア・励起子のスピンダ イナミクス研究	Radio-wave Effect on Singlet Fission in Polycrystalline Tetracene near Zero Magnetic Field, Y. Wakikawa, T. Ikoma, J. Phys. Chem. Lett, 14, 3907-3911, (2023). Radiowave Effects on an Electron-Hole Pair in a Poly(3- hexylthiophene) near Zero Magnetic Field, Y. Wakikawa, T. Ikoma, J. Phys. Chem. C, 12, 26613-26618, (2021). Recombination of Free Carriers and Space Charges in Poly(3- hexylthiophene), as Revealed by Electrically and Capacitively Detected Magnetic Resonances, Y. Wakikawa, T. Ikoma, . Phys. Chem. C, 124 19945-19952, (2020).